

生徒一人ひとりの ポテンシャルを 最大限に引き伸ばすことで 「進路満足度100%」を目指す

Masaaki Hirai

平井正朗

初芝富田林中学校・高校 校長

ひらい・まさあき

京都、兵庫の名門私立中学校高等学校の英語科教諭、管理職、大学評議員等を経験。公職として、全国英語教育研究団体連合会 理事(近畿地区)、京都府英語教育研究会連合会連絡協議会 会長、京都府私立中学高等学校連合会 外国語教育研究会委員長、日本私学教育研究所 外国語(英語)教育改革特別委員等を歴任。私学経営、教育行政に精通し、要職を歴任。学校を活性化させ、進学率等をV字回復させる手腕は各方面から高い評価を得ている。2018年より現職に。大阪初芝学園理事。大阪府教育委員、国際教育学会理事を兼任。生徒たちから「先生のおかげで成長した」と言われたときに教員の醍醐味を感じ、「自分のキャリアをつくってくれたのは生徒たち」と語る。

トップが模範を見せ率先垂範しながらカリキュラム・マネジメントを推進

今年の4月、学校改革を推進すべく本校に招かれました。本校は学校法人 立命館と教学連携して10年目を迎え、大阪府下に確固とした地位を占める進学校として復活させ、それをステップに新たな教育を創造することが私に課せられたミッションです。

世の中の急激な変化にともない、社会が求める人物像が変容しているなか、生徒たちをこれからの社会で通用する人材に育成しなければなりません。本校の生徒たちは真面目な生徒が多い一方で、近年は必ずしも本校が第1志望でなく自己肯定感が低い生徒も見受けられました。先生方も危機感をもちながらも、改革をどう進めれば良いかわからない状態でした。

そこで、これまで個々の先生方の力量に依存しがちだった教科指導、クラス指導、分掌の仕事、教職員が一丸となって「チーム初富」として機能するよう、カリキュラム・マネジメントを再構築しました。具体的には、前年踏襲や固定化していた校務を流動させ、開かれた学校づくりのために報連相を徹底。相互不干渉の体質から、教科や分掌を超えた協働的な職場風土への変革です。改革でのリーダーの役割は制度設計と、教職

員のモチベーションを上げることですが、実践していくのは現場の先生方自身です。私は先生たち一人ひとりと対話し、つぶさに観察し、良い点を徹底的にほめ、教員自身の成長過程を「校長ブログ」などで全体に共有しています。

学校改革で最も重要なのは授業改革ですが、大切なのは、伸びの実感を与え教科に対する興味・関心を付与することです。まずは模範を見せてから一緒にやる、率先垂範がリーダーシップには欠かせません。しかし、細かいことまで教員が教員を教えようとしても効果は出ません。生徒たちの成長を通して初めて教員自身が気付き、変わっていきます。私自身、自分のキャリアをつくってくれたのは生徒たちだったと考えています。本校の先生方のキャリアをつくるのも、また生徒たちなのです。

生徒が「なりたい自分になれる」成長の幅の広い学校を目指す

改革で本校が目指す姿は、個々の生徒のポテンシャルを最大限に引き出し、進路満足度100%の学校です。生徒たちが現状の学力で合格できる大学に進むのではなく、「本当に一番行きたい大学」に挑戦・合格し、「なりたい自分になれる学校」と感じてもらうことです。そのために、生徒個々が「学力の伸び」を実感できる教育体制にしていかなければなりません。先生方の授業力を高めるために、公開授業を実施し、外部からの評価を受け、振り返りを行っていきます。働き方の改善も求められるなか、教員の負担を減らす施策も必要で、外部へのアウトソーシングも考えています。

改革はまだ始まったばかりですが、特効薬などありません。地道に一人ひとりの教職員と向き合っていくことで達成できると考えています。